

# 体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

## 防災教育キャンプ

熊本県教育委員会

### 【事業のポイント】

- 小学校体育館を避難所に見立てた3日間
- ライフライン寸断から復旧までを体験
- 地域住民や地域行政との連携協力
- 地域の実態に応じた災害設定
- 直接的参加と間接的参加者の学び



## 1. 企画

### (1) 事業実施の背景

熊本県では、平成24年度文部科学省委託事業として、県立青少年の家を会場とした2泊3日の「防災教育キャンプ」を2施設で行った。体育館を避難所に見立てて3日間、食事、電気、水などの制限を受けながら共同生活を行うといった避難所の疑似体験を行うとともに、起震車による震度7の体験、煙発生装置による煙体験、災害救助やケガの応急処置の訓練など、様々な災害に関する体験活動を行った。8月の天草青年の家では54人、10月の豊野少年自然の家では84人の参加があり、普及・啓発のためのフォーラムにも160人の参加があった。参加者からは「ぜひ、自分の地域でも体験型の活動をやってみたい。」という声も多く聞かれた。また、キャンプをとおして県立青少年の家職員が防災教育に関する多くの指導のノウハウを得ることができた。

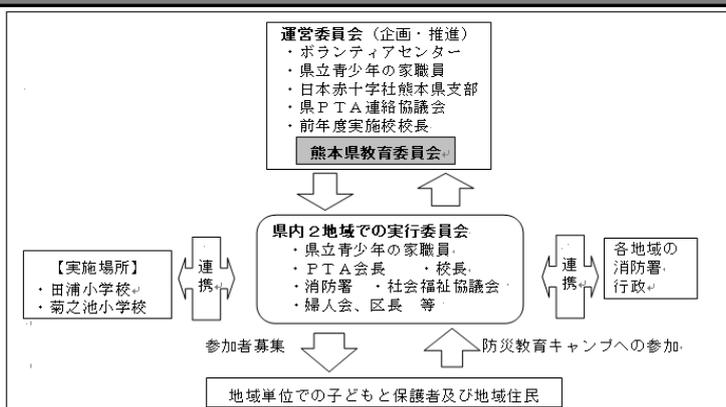
そこで、本年度は、その成果を活かし、体験的な防災訓練の実施を考えている学校や地域に対し、県立青少年の家の職員が出向いて実施する出前型の「防災教育キャンプ」を開催する。職員は、ダンボールを使っての居住スペース作り、飯ごう炊飯、夜間避難訓練などの活動を指導するとともに、体育館での避難所疑似体験のために、ため水を利用しての洗面や炊事、トイレ使用等の生活体験の活動支援を行う。消防署や日赤熊本県支部と連携し、救助訓練、起震車体験といった体験的な防災・減災の学習を行う。更に、平成24年の7月、本県は九州北部豪雨で大きな被害を受け、阿蘇地域では21人の尊い命が奪われ、51日に渡る避難所生活を余儀なくされた地域もあったことから、それに関わった方を講師に招き、災害の現状を学ぶとともに、今後、出前型の「防災教育キャンプ」を選択肢の一つに加えることで、その普及・啓発を推進していく。

### (2) ねらい

- ① それぞれが暮らす地域の、災害・社会の特性や防災科学技術等についての知識を備え、減災のために事前に必要な準備をする能力
- ② 自然災害から身を守り、被災した場合でもその後の生活を乗り切る能力
- ③ 進んで他の人々や地域の安全を支えることができる能力
- ④ 災害からの復興を成し遂げ、安全・安心な社会を構築する能力といった「生きる力」を涵養し、能動的に防災に対応することのできる人材を育成を図る。

## 2. 事業概要

### (1) 運営体制



(2)開催実績	
月 日	内 容
5月	事業日程の調整及び運営体制の検討
5月28日	田浦防災教育キャンプ事前説明会(芦北町立田浦小学校)
5月29日	菊之池防災教育キャンプ事前説明会(菊池市立菊之池小学校)
6月25日	第1回運営委員会(熊本県庁)
6月27日	田浦防災教育キャンプ第1回実行委員会(芦北町立田浦小学校)
7月16日	田浦防災教育キャンプ第2回実行委員会(芦北町立田浦小学校)
7月26日～28日	田浦防災教育キャンプ(芦北町立田浦小学校)
9月26日	菊之池防災教育キャンプ第1回実行委員会(菊池市立菊之池小学校)
10月21日	菊之池防災教育キャンプ第2回実行委員会(菊池市立菊之池小学校)
11月1日～3日	菊之池防災教育キャンプ(菊池市立菊之池小学校)
12月19日	第2回運営委員会(熊本県庁)
1月25日	平成25年度生涯学習フェスティバルinパレア 展示ブースにおける資料展示(生涯学習推進センター)
2月14日	平成25年度第3回社会教育主事等研修(熊本県庁) 実践報告
2月19日	平成25年度「地域教育コーディネーターの育成・活用事業」「放課後こども教室推進事業」 第3回コーディネーター等研修(甲佐町) 実践報告
3月	報告書作成配付による普及・啓発

### 3. 防災キャンプ実施概要

#### (1) 田浦防災教育キャンプ

##### ① 平成25年7月26日(金)

開会行事、OR

- ・防災教育キャンプの見通しをもつ。(キャンプの場面設定やルール)

活動1 居住スペースづくり

- ・参加者同士で協力しあいながら段ボール等を使って居住スペースを作成する。

活動2 夕食(活動1中)

- ・備蓄食(乾パン、水)を受け取り、居住スペースで食する。

活動3 夜間避難訓練

- ・地震発生後に津波が来る場面を設定し、高台の避難場所まで避難する



OR:避難所の施設の使い方説明



段ボールでの居住空間づくりの様子

##### ② 平成25年7月27日(土)

活動4 朝食づくり

- ・支援物資が到着したことを想定し、避難所にある食材で朝食をつくる。

活動5 防災教室(地震・避難編)

- ・三角巾(日赤)、起震車(熊本市消防局)、煙体験(芦北消防)車いす(芦北町社会福祉協議会)

活動6 昼食

- ・昼食は、炊飯支援者が薪を使って調理を行う。(カレーライス)

活動7 夕食準備(炊飯準備)

- ・各自米を研ぎ、ハイゼックス袋に入れておく。

活動8 野外炊飯

- ・夕食は、避難体験者が自ら薪を使った野外炊飯を行う。(薪炊飯によるレトルト丼)

活動9 ドラム缶風呂体験

- ・支援者が湯を沸かしてドラム缶風呂を準備し、参加者がドラム缶風呂に入る。

活動10 プールシャワー



防災教室：起震車での震度7体験



野外調理：ハイゼックスを使った薪炊

③ 平成25年7月28日(日)

活動11 朝食

- ・炊飯支援者が炊飯器炊飯及びガス調理による朝食づくりを行う。(味噌汁、ごはん)

活動12 KYT

- ・地震を想定した危険予知トレーニングを行う。

ふりかえり

- ・アンケートを書き、感想交流を行う。

閉会行事

- ・参加者の代表者が感想発表を行う。



炊飯支援者からの朝食提供



危険予知トレーニング(地震編)

(2) 菊之池防災教育キャンプ

① 平成25年11月1日(金)

開会行事、OR

- ・防災教育キャンプの見通しをもつ。

活動1 居住スペースづくり

- ・参加者同士で協力しあいながら段ボール等を使って3日間過ごす居住スペースを作成する。

活動2 夕食

- ・備蓄食(乾パン、水)を受け取り、居住スペースで食する。

ふりかえり・就寝準備

- ・1日の活動をふりかえり、しおりに記入する。



懐中電灯の明かりで段ボールハウス



段ボールハウスで乾パン・水(夕食)

② 平成25年11月2日(土)

活動3 給水車より受水

- ・健康観察を行い、体調を確認する。
- ・菊池市水道局から給水車が到着し、一人4Lの水を災害用簡易タンクに給水する。

活動4 朝食づくり

- ・支援物資が到着したことを想定し、避難所にある食材で朝食づくりを行う。(カートンドック)

活動5 三角巾の活用術

- ・三角巾の使い方について日赤講師から災害時に有効な手当法を学ぶ。

活動6 昼食づくり・昼食

- ・自分の水で米を研ぎハイゼックス袋につめる。
- ・昼食は、避難体験者が自ら薪を使った野外炊飯を行う。(薪炊飯によるレトルト丼)

ドラム缶風呂(希望者)



牛乳パックを活用したカートンドック



菊池市水道局の給水車から保水中

活動7 防災教室

- ・土のうづくり、運搬術(菊池消防)、Yes、Noクイズ(社会福祉協議会)  
豪雨体験(菊池少年自然の家)

活動8 夕食

- ・夕食は、避難所の支援体験参加者が薪を使って調理を行う。(カレーライス)

活動9 ライトアップ式

- ・ライフライン復旧の瞬間を参加者全員で迎える。

活動10 講義「九州北部豪雨」

- ・九州北部号の際に実際に救助体験をした講師から災害の様子を学ぶ。  
ふりかえり・就寝準備



ハイゼックスを使っでの炊飯(昼食)



防災教室:毛布を活用した運搬術



防災教室:崖崩れのメカニズム



九州北部水害の講義から学ぶ

③ 平成26年11月3日(日)

活動11 朝食

- ・炊飯支援者が炊飯器炊飯及びガス調理による朝食づくりを行う。(味噌汁、ごはん)

活動12 まとめ□

KYT

- ・洪水を想定した危険予知トレーニングを行う。(菊池北消防)

菊池市災害の現状

- ・菊池市の地理的現状や過去の災害の現状について学ぶ。(菊池市防災交通課)

ふりかえり

- ・アンケートを書き、感想交流を行う。

閉会行事

- ・参加者の代表者が感想発表を行う。



危険予知トレーニング(大雨洪水)



菊池市の災害について学ぶ

#### 4. 普及啓発の実施概要

活動名	平成25年度生涯学習フェスティバル in パレアにおけるパネル展示
趣 旨	防災キャンプ事業の様子を情報として発信し、県民の防災の意識の高揚を図るきっかけづくりとする。
実施期日	平成26年1月25日(土)
実施場所	生涯学習推進センター
参加人数	3, 200人参加(フェスティバル参加者数)
対 象	県民
プ ロ グ ラ ム	
時 間	内 容
10:00 16:00	人通りの多いパネル展示スペースにおいて、本年度の防災教育キャンプの趣旨、活動の様子及び成果等を県民へ情報提供

活動名	平成25年度第3回社会教育主事等研修 実践報告
趣 旨	社会教育に携わる参加者に対して防災に関する事業の必要性とノウハウについて紹介し、県下全域での防災教育の拡充の機会とする。
実施期日	平成26年2月14日(金)
実施場所	熊本県庁
参加人数	68人
対 象	各教育事務所社会教育主事、熊本市・山鹿市社会教育関係職員、国立青少年教育施設職員、生涯学習推進センター職員、県立青少年教育施設指定管理者職員 他
プ ロ グ ラ ム	
時 間	内 容
10:30	実践報告1「防災教育キャンプ」について 総務・生涯学習係 社会教育主事 井口 秀明 趣旨、内容及び成果等 あしきた青少年の家 専門職員 泉 雄樹 感想 11:10 菊池少年自然の家 専門職員 稲田 智大 感想

活動名	平成25年度「地域教育コーディネーターの育成・活用事業」「放課後子ども教室推進事業」第3回コーディネーター等研修
趣旨	社会及び学校教育教育に携わる参加者に対して防災に関する事業の必要性和ノウハウについて紹介、県下全域での防災教育の拡充の機会とする。
実施期日	平成26年2月19日(水)
実施場所	甲佐町生涯学習センター
参加人数	100人
対象	地域教育コーディネーター(学校支援担当、家庭教育支援担当)及び放課後子ども教育コーディネーター、市町村担当者、各教育事務所社会教育主事、地域の寺子屋プランナー
<b>プログラム</b>	
時間	内 容
10:10	防災教育キャンプ推進事業について 熊本県教育庁教育総務局社会教育課社会教育主事 井口 秀明
10:30	趣旨、内容及び成果等

## 5. 成果と課題

### (1) 事業成果

- 「防災対応能力の基礎を培う」という目標達成に向けたプログラムを設定し、「わかる」「やってみる」「考える」ことを意識した活動が展開したので、自助力・共助力を高めることができた。
- オリエンテーションや各プログラムの初めに活動のねらいや内容を参加者と共有したことで、発達段階に応じた判断力を高めることができた。このことが、個々のプログラムで付けたい力は何かなどを意識しながら活動できた要因になった。
- 避難所疑似体験、津波を想定した夜間避難訓練、スポンジやベニア板を使った土砂災害発生装置のプログラム等により、災害メカニズムや地域の自然・防災環境について理解することができた。
- 薪を使った野外炊飯、災害発生時の応急処置の仕方(三角巾)、災害時のロープワーク術、車椅子の操作体験などにより、他の人々や集団地域の安全に役立つことを体感することができた。
- 段ボールを活用した居住空間づくり、煙体験、起震車による震度7の地震体験等により、自らの安全を確保するために行動することを意識することができた。
- 個人よりも複数人を単位としたグループ等を設定し、お互いに関わり合いながら活動を進めたことで「共助力」の向上へとつながった。
- 炊飯支援者による食事提供、ドラム缶風呂の運営、災害ボランティアによる避難所管理など地域の教材の活用や地域と連携したプログラムを提供したことにより、実際の避難所に近い状況で活動ができた。また、地域防災組織づくりのきっかけづくりにもなった。
- 3日間の流れを「ライフライン寸断から復旧」までの場面設定をしたことで限られた期間に様々な体験ができた。
- 社協が開催した「災害ボランティア養成講座」の受講生が避難所管理者として参加し、より実践的な活動へ繋がった。また、地域の防災ネットワークづくりにも寄与できた。
- 九州北部豪雨の際に救助にあたった講話や菊池市防災交通課の講義により、地域の災害の状況について理解することができた。
- プログラムごとのアンケート(意識調査)を定期的にとったのでプログラム評価の検証ができた。
- 災害時に食事をつくるのは不便だということがすごくわかった。もし、地震が起きやすい土地に済んだ時は、このキャンプで学んだことを活かそうと思った。
- ぼくは、防災教育キャンプに参加して、飲み物や食べ物がどれだけ大切かわかった。でも、水の怖さもわかった。この経験を忘れないようにしたい。
- この3日間をととても短く感じたし、とても勉強になった。食事を避難所で食べられるのは奇跡だと思う。本当の災害にあつたらもっと大変だと思うが、このような訓練が体験できてとてもためになった。
- 今日の朝食はみそ汁とご飯だけだったけどすごくおいしかった。電気がつかなかったことはびっくりしたけどこれからの生活で活かそう。
- 食べ物が災害の時は十分確保できないことがわかった。これからの生活で活かしたいし、帰ったら家の人に感謝したい。
- 防災教育キャンプに参加するかしないかではすごく違うと思う。
- 初めての経験や体験をした。協力・助け合い、火おこしの男性の方も知恵を出し合って協力していただいた。80歳の年齢で少し体調(足)が悪かったので、体力をつけて頑張ろうと思った。
- 私たちもこのキャンプの中から学ぶものが多く、勉強になった。災害ボランティアとして活動させてもらったが、なかなか自分から動けなかったところが反省点である。私も福祉の視点から防災・減災を子ども達に伝えたいと思う。

- 機会があったら次回も参加したい。こういう体験を受けておくことでいざという時に動けるのだと思う。
- 子ども達の協調性や社会性がすごく身に付いたキャンプになったと思う。食料や電気のありがたさがわかり今後の生活にも変化があると思う。助け合いながら人は生きていることも知ったと思う。多くの方々に協力していただき感謝している。
- 自助・共助の大切さ、被災者の気持ちについて体験を通して少しは理解できた。プログラムの内容も充実していて、たいへん勉強になった。
- キャンプの概要を地域の方に話したところ、「大切な学習の場ですね。」と感心された。子ども達や保護者、参加された地域の方の声など、啓発として地域に伝えるとよいと思う。
- すべてが防災対応能力として身に付けておいた方がよいという内容であった。子ども達には大変貴重な体験だったと思う。もっと広く普及し、災害に備える力を育てる必要を感じた。このような機会をいただき感謝している。
- キャンプで明かりや水の大切さを実感した。明かりが消えた時の不安、水のないときの不便さ、今までの日常に感謝する気持ちができた。また、屋外での炊飯では火加減でご飯が焦げてしまったが、皆さんがおいしいと言っていたきうれしかった。これからも何らかのボランティアとして参加していきたい。

## (2) 事業運営上の課題・留意点

- △3日間を通した参加が過半数程度で、残りは部分参加となった。今後は、部分参加してもより明確な学びが保障できるようなプログラミングを行っていききたい。
- △児童の参加者の対象が幅広く、その発達段階や特性に応じたアンケートや教材の準備を工夫する必要がある。
- △保護者の参加が少なかった。家庭での防災意識を高めるためにも家族単位での参加を呼びかける方法を具体的に考えていきたい。
- △夏の時期で考えられる熱中症や食中毒対策は行ってきたが、より徹底できるように保健所や病院等の関係機関との連携も大切になってくる。(健康面、安全面)

## (3) その他

## 6. 団体プロフィール

熊本県教育庁教育総務局社会教育課

〒862-8609

熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

TEL 096-333-2697

FAX 096-387-0089



熊本県庁